

2021年6月2日 第49回研究報告会（会場及びオンライン併用開催）

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。

運輸総合研究所会長の宿利です。本日は、ご多忙の中、また緊急事態宣言下にもかかわらず、第49回研究報告会にこの会場とオンラインにて大変多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

また、公務ご多忙の中来賓として、国土交通省の藤井直樹国土交通審議官にご出席いただいております、この後ご挨拶をいただきます。誠にありがとうございます。

さて、私ども運輸総合研究所では、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、昨年7月下旬に開催された第47回研究報告会の録画による開催を皮切りに、録画、オンライン、会場とオンラインの併用、と毎回工夫をしながら運輸政策セミナーやコロキウムなどの活動を実施してきました。

今回の研究報告会は、研究報告会としては初めて、会場とオンラインの併用で実施することとし、プログラムについても、内容を刷新することといたしました。具体的には、今回の報告会から、毎回適切なテーマを設定して学識経験者等に基調講演をお願いするとともに、当研究所の研究者からの研究報告ごとに、その研究分野に造詣の深い学識経験者にコメンテーターとしてご登壇いただき、研究報告のポイントや意義についての解説や報告者への質問を行っていただくことにより、研究や議論を皆様と共に深めることを目指すこととしております。

本日基調講演をいただく東京大学大学院の加藤浩徳教授及び5名のコメンテーターの皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

さて、当研究所では、「学術研究と実務的要請の橋渡し」という設立の原点を踏まえ、「世の中の役に立つ」、「使いものになる」成果を実現すべく、真にニーズが高い分野に活動を集中するとともに、国際的な活動や海外との連携の強化に取り組んでおります。

本日は、この機会に特に2つのことを申し上げます。

まず第一に、「国際的な活動や海外との連携の一層の強化」です。

当研究所では、アメリカのワシントンD.C.にあります「ワシントン国際問題研究所」に次ぐ2か所目の海外拠点として、今年4月1日にタイのバンコクにアセアン・インド地域事務所を開設しました。現在既に5名の研究者がバンコクに赴任し活動を始めています。

バンコクもまた現在新型コロナウイルス感染拡大の渦中にあり、何かと活動・行動が制約されておりますが、近日中に現地スタッフ2名の採用手続きを終えて、活動を本格化していく予定です。アセアン・インド地域事務所につきましては、後ほど同事務所の所長を兼務しております奥田専務理事から詳しくご報告いたします。このように、当研究所がアセアン・インド地域において活動を充実・強化

するタイミングに合わせて、本日は、この後加藤先生にご登壇いただき「我が国の交通運輸システムは国際社会にどう貢献できるのか」という時宜を得たテーマについて基調講演をいただきます。

当研究所としては、今後、アメリカ、タイの2つの海外拠点と東京の本部が一体となって、北米から ASEAN・インド地域までを視野に入れた広域的かつ戦略的な活動に着実に取り組んでいくつもりです。当然ながら欧州の最新の動向も適切にフォローしつつ、国際的な活動の質を高めていきたいと考えています。

第二に、「ポスト・コロナを見据えた活動」です。

昨日から緊急事態宣言が延長されるなど、新型コロナウイルスの感染拡大は、未だ収束の見通しが立たず、我が国の国民生活や経済に深刻な影響を与えており、とりわけ運輸・観光産業は甚大な影響を受けています。このような状況を踏まえ、当研究所では、昨年夏以来ポスト・コロナを見据えた活動に重点を置いて取り組んでいます。

前回の研究報告会において、新型コロナに関連するテーマとして、「航空業界への影響と対応策」、「サプライチェーンのレジリエンス強化」に関する研究の成果を発表いたしました。

本日は、5名の研究員からの研究報告の中で、1つ目は運賃制度と鉄道乗車行動との関係、2つ目は新型コロナと出張との関係、3つ目はリモートワークと交通行動・居住地選択との関係について、3本の研究報告を行います。

さらに、明日の運輸政策コロキウムでは、

「新型コロナウイルス感染拡大下における米国の交通機関支援」をテーマにワシントン国際問題研究所の研究員から発表し、本日も登壇いただく日比野先生にコメンテーターをお願いしております。

また、今月25日には、「ワクチンパスポート・トラベルパスに関するセミナー」をオンラインにて開催いたします。

さらに、来月7月5日には、

「東京圏の鉄道の中長期的課題への対応とコロナ禍に関するシンポジウム」を、首都圏の主要な鉄道事業者の皆様のご協力をいただいで開催いたします。

また、この夏からは「ポスト・コロナを見据えた中長期的な公共交通のあり方」について骨太な調査研究を始めます。

当研究所では、今後ともこの「ポスト・コロナを見据えた活動」に継続的に取り組んでいく予定です。

最後に、本日の研究報告会につきましては、日本財団の特別の支援を受けて開催するものであることを申し添え、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。当研究所といたしましては、今後とも、皆様のご期待に応えるべく努力を重ねてまいりますので、引き続き、ご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。私の挨拶といたします。

(以上)